

2025年度 上越教育大学出前講座

目 次

出前講座について	・・・・・・・・ 1
申込み方法等	・・・・・・・・ 2
出前講座テーマ等一覧	・・・・・・・・ 3
出前講座概要（74講座）	・・・・・・・・ 5
出前講座申込書（別記第1号様式）	・・・・・・・・ 30
出前講座実施報告書（別記第3号様式）	・・・・・・・・ 31
出前講座アンケート	・・・・・・・・ 32

出前講座について

上越教育大学では、地域の学校等の教育関係機関、地域の住民団体及び企業等の求めに応じ、大学教員が出向して講義等を行う「出前講座」を実施しております。

出前講座は、大学の教育と研究の成果を広く地域社会に還元するための地域貢献活動の一環として行われている事業です。2025年度は、74講座を開講します。学校での体験学習やキャリア教育の一環、現職教員の方々の研修会等としてお役立ていただけるよう、幅広いテーマをご用意しております。

どうぞお気軽にご利用ください。



<申込み方法>

- ① 「出前講座テーマ等一覧」からご希望の講座をお選びの上、30ページの「出前講座申込書（別記第1号様式）」を作成し、下記申込み先までお送りください。学校からのお申込みの場合は、「申込代表者」欄に必ず学校長名を記入してください。また、「出前講座申込書（別記第1号様式）」の講座名は、3ページの「出前講座テーマ等一覧」に記載してあるテーマ名を記入してください。
- ② 申込書受付後は、事務担当者が担当講師と日程等について調整します。担当講師と調整済みの場合は、その旨ご連絡ください。講座実施の可否が決定しましたら、大学よりメールもしくはFAXにて「出前講座承諾通知書（第2号様式）」（以下、「承諾書」という）をお送りします。
- ③ 承諾書が届きましたら、講習料をお振り込みください。

講座実施にかかる事前手続きは以上となります。なお、担当講師の派遣依頼等の手続きは不要です。

<実施報告書及びアンケートの提出>

講座終了後は、1ヶ月以内に31ページの「出前講座実施報告書（別記第3号様式）」及び32ページの「出前講座アンケート」を作成し、下記申込み先までお送りください。また、「出前講座実施報告書（別記第3号様式）」の講座名は、3ページの「出前講座テーマ等一覧」に記載してあるテーマ名を記入してください。

<費用>

講習料（1講座につき20,000円）と講師旅費（実費）の2種類の費用をご負担ください。講習料は、承諾書送付後に納入方法をご案内しますので、必ず講座実施前にお振り込みください。ただし、講習料は、新潟県、富山県及び長野県の地域諸学校の学校長からのお申込みの場合には必要ありません。

また講師旅費は、実施会場が平成17年合併以前の旧上越市内の場合は必要ありません。旅費の算定方法やお支払い方法については、特段の定めは設けておりません。詳しくは担当講師と直接ご相談ください。

なお、上越教育大学基金に寄附をした企業・団体は、講習料が全額免除になる場合があります。詳細は問い合わせ先へご連絡ください。

講習料（1講座につき 20,000円）

※新潟県、富山県及び長野県の地域諸学校の学校長からのお申込みの場合には必要ありません。



講師旅費（実費）

※実施会場が平成17年合併以前の旧上越市内の場合は必要ありません。

<注意事項>

- ・担当講師に対する謝金は不要です。
- ・納入期限までに講習料をお振り込みいただけない場合、延滞金が発生することがありますので、ご注意ください。
- ・承諾書送付後に、天災等不測の事態が生じ、講座の実施が困難になったときは、中止する場合がありますので、予めご了承ください。なお、お申込者の都合により、中止になった場合、講習料をお返することはできませんのでご了承ください。
- ・担当講師の研究分野等に関する詳しい情報は、上越教育大学ホームページ（<https://www.juen.ac.jp/index.html>）「上教大で教える先生」から検索することができます。

<お問い合わせ先について>

- ・講座内容に関するお問い合わせは、5ページ以降の「出前講座概要」に記載してある、担当講師の電話番号・メールアドレスへ直接お問い合わせください。その他、お申込み方法などのお問い合わせは、下記問い合わせ先までご連絡いただきますようお願いいたします。

申込み・問い合わせ先

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学研究連携課

TEL 025-521-3665 FAX 025-521-3621 E-mail chilki@juen.ac.jp

URL <https://www.juen.ac.jp/050about/058lecture/030delivlec/index.html>

受付時間 平日（月～金） 9:00～17:00



出前講座テーマ等一覧

分野	テーマ名	担当講師		受講対象者	掲載頁
総合・情報	1 ファシリテーションに基づく協同的な授業づくり ーホワイトボード・ミーティング®を活用してー	大場 浩正	教授	教員、大学生、大学院生	5
	2 ファシリテーター養成ーホワイトボード・ミーティング®入門ー	大場 浩正	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、大学生、地域住民、企業等	5
	3 プログラミング入門および初級講座	大森 康正	副学長／教授	教員、保護者、地域住民、企業	6
	4 プログラミングを行う課外活動等の支援	大森 康正	副学長／教授	小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	6
	5 学習指導要領とこれからのキャリア教育 ー特別活動を要とし、各教科の特性に応じて行うキャリア教育ー	山田 智之	教授	教員	6
	6 学校教育におけるリスクマネジメントとしての保護者対応	山田 智之	教授	教員	7
	7 人生は意思決定の連続！ 会社経営シミュレーションゲームでキャリア（人生）について考える。	山田 智之	教授	中学生、高校生	7
	8 リーダーシップって何？ ブームワーカーで、リーダーにとって大切なことを考える。	山田 智之	教授	中学生、高校生	8
	9 チームワークって何？ ブームワーカーで、チームとは何かを考える。	山田 智之	教授	中学生、高校生	8
	10 経済的に自立するってなんだろう？ 生活設計・マネープランゲームで人生とお金について考える。	山田 智之	教授	中学生、高校生	9
	11 「コミュニケーション」ってなんだろう？ ーよりよい人間関係のために大切なことを考えるー	山田 智之	教授	中学生、高校生	9
	12 協働的な学びを育む授業デザインの創造	桐生 徹	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	9
	13 紙ペンゲームでクラスづくりコミュニケーション ー楽しく自然にアイスブレイクー	小島 伸之	教授	教員、保護者、小学生（高学年が望ましい）、中学生、高校生	10
	14 学びのワークショップ！	阿部 隆幸	教授	小学生	10
	15 「協働的な学び」の考え方と技術を身につけよう	阿部 隆幸	教授	教員	10
	16 木のおもちゃで遊び、学ぶ	東原 貴志 吉澤 千夏 藤井 和子	教授	幼児、小学生	10
	17 子どもたちの主体的な学びを支える教師の見取りとフィードバック	大島 崇行	教授	教員、支援員	11
	18 自己調整する学びを支える授業デザイン ー授業づくりの考え方・教師の在り方・支え方ー	大島 崇行	教授	教員	11
	19 遊びを通じた学びとは ー乳幼児とのコミュニケーションのコツー	白神 敬介	准教授	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民	11
	20 保育・教育現場におけるメンタルヘルス問題の予防と対応	白神 敬介	准教授	教員、福祉関係従事者	12
	21 通常の学級における教育的支援を必要とする子の理解と対応	関原 真紀 坂口 嘉菜	准教授 講師	教員	12
	22 愛着（アタッチメント）を育む ー愛着に問題がある子どもの対応を考えるー	飯塚 有紀	准教授	教員	12
	23 発表アイディアが浮かぶ！まとまる！ファシリテーション講座	阿部 雅也	准教授	教員、中学生、高校生	13
	24 ゲームやデジタル機器との上手な付き合い方を考える	田中 圭介 清水 雅之	准教授 教授	中学生、高校生	13
道徳・心理	25 メンタルヘルスの予防と対策 ー教職員のストレスチェック結果の活用に向けてー	宮下 敏恵	教授	教員	14
	26 心配と心の健康	田中 圭介	准教授	教員、保護者、小学生（高学年）、中学生、高校生、地域住民、企業	14
特教別育支援	27 チームで進める特別支援教育	笠原 芳隆 藤井 和子	教授	教員、保育士、福祉・療育機関職員等	15
	28 緊張をゆるめて姿勢やからだの動きをよくしよう！	笠原 芳隆	教授	教員、保育士、福祉・療育機関職員等、保護者	15
国語	29 書写指導の考え方と「文字を書くこと」の基礎	押木 秀樹	教授	教員	16
	30 ラップ群読で音韻意識を高めよう ーことばの表現は音の響きとリズムが大切ー	片桐 史裕	教授	中学生、高校生	16
	31 言葉による見方・考え方を働かせながら学びを深める国語単元学習	古閑 晶子	教授	教員	16
	32 ちょっと気になる国語の話	松城 梓	講師	保護者、地域住民、企業、幼児、小学生、中学生、高校生	17
英語	33 小学校・中学校・高等学校における 「主体的・対話的で深い学び」を目指した英語授業づくり	大場 浩正	教授	教員、大学生、大学院生	17
	34 英語音声学	橋本 大樹	准教授	教員、高校生	17
	35 英語耳？ 英語脳？ スイッチONのコツ 教えます！	阿部 雅也	准教授	教員、中学生、高校生、地域住民、企業	18
	36 はじめての英語多読	渡邊 政寿	准教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	18
国際社会教育	37 身近な地域の地図を活用した社会科・地理学習	志村 喬	副学長／教授	教員、中学生、高校生	18
	38 学校『地図帳』から学ぶ地理の世界	志村 喬	副学長／教授	教員、保護者、地域住民、企業	18
	39 アフリカってどんなところ ー豊かな自然とそこに暮らす人々ー	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	19

分野	テーマ名	担当講師		受講対象者	掲載頁
社会・国際教育	40 地域の災害に備える	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	19
	41 歩いて見よう高田城下町の地形	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	19
	42 簡単な地理情報システム（GIS）を活用したオリジナル地図作成	山縣 耕太郎	教授	教員、中学生、高校生	20
	43 地球温暖化：なぜおきる？何がおきる？	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	20
	44 発展途上国からSDGsを考える	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	20
	45 世界の国歌を学ぼう	小島 伸之	教授	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民、企業	21
	46 戦後日本の巨大ロボットアニメー社会とその変化との関係からー	小島 伸之	教授	教員、高校生、地域住民、企業	21
	47 知識基盤社会における教育の世界的動向	大前 敦巳	教授	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民、企業	21
	48 SDGs入門～身近な所から考える自分・地域・世界のつながり～	阿部 雅也	准教授	教員、中学生、高校生、地域住民	22
	49 中東での暮らしと人びとの習慣～ヨルダンを中心に～	藤谷 元子	准教授	教員、地域住民、企業、中学生、高校生	22
算数・数学・理科	50 黄金比とフィボナッチ数列など	林田 秀一	教授	保護者、中学生、高校生、地域住民	22
	51 雪国の植物	五百川 裕	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	23
	52 身近な植物観察	五百川 裕	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	23
	53 海外植物調査の実際（ネパール・ムスタン地域の植物相調査を例として）	五百川 裕	教授	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民、企業	23
	54 上越市の絶滅危惧植物	五百川 裕	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	23
	55 びかびか泥団子をつくろう	山縣 耕太郎	教授	幼児、小学生、中学生、高校生	24
	56 活火山妙高山を見に行こう	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	24
	57 実験で知る地形のでき方	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	24
	58 地域の地形・地質の野外観察	山縣 耕太郎	教授	教員、保護者、幼児、小学生、中学生、高校生、地域住民	25
	59 光の性質	小川 佳宏	教授	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民	25
	60 出前実験	小川 佳宏	教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	25
音楽	61 歌唱・合唱講座	上野 正人	副学長／教授	教員、小学生、中学生、高校生、大学生、地域住民	25
	62 合奏の基礎―その目的と効率的な方法―	長谷川 正規	准教授	小学生、中学生、高校生	26
	63 合奏における作品演奏の実践	長谷川 正規	准教授	小学生、中学生、高校生	26
	64 〈ガムラン〉に触れてみよう	玉村 恭	准教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	26
	65 和楽器・日本音楽の世界	玉村 恭	准教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	27
美術・工芸	66 木材の性質と木工作を学ぶ	東原 貴志	教授	小学生（3～6年生）、中学生、高校生	27
体育	67 動きづくり～動きを豊かにしよう～	周東 和好	教授	幼児、小学生、中学生、高校生（教員、保護者）	27
	68 体づくり～体調の整え方～	周東 和好	教授	地域住民、企業	28
	69 やわらかなからだ～柔軟プログラムの提供～	周東 和好	教授	幼児、小学生、中学生、高校生、地域住民、企業	28
	70 スポーツ・運動ができる・上手くなる過程	長谷川 晃一	講師	教員、保護者、中学生、高校生、地域住民、企業	28
	71 スポーツ・運動の指導者にとって必要な能力	長谷川 晃一	講師	教員、保護者、地域住民、企業	28
	72 現代的なリズムのダンスの導入	長谷川 晃一	講師	教員、中学生	29
	73 体操の補助	長谷川 晃一	講師	教員、小学生、中学生、企業	29

■いじめ・生徒指導研究研修センター

テーマ名		担当講師		受講対象者	掲載頁
74	いじめ・不登校等生徒指導	高橋 知己 大門 秀司 生方 直 辻村 貴洋 寺戸 武志 蜂須賀 洋一	教授 准教授 講師 准教授 准教授 准教授	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、企業等	29

01		ファシリテーションに基づく協同的な授業づくり ーホワイトボード・ミーティング®を活用してー	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 大場 浩正 教授	電話 E-mail	025-521-3306 hohba
受講対象	教員、大学生、大学院生	講義形式	ワークショップ
		講義時間	1時間～3時間（要相談）
注意事項	具体的な内容に関しては要相談		
講座概要	ファシリテーションとは、一人一人の意見を生かし、合意形成や課題解決を進める話し合いの技術であり、私たちが「本来持っている力」を発揮して、みんなで意見を出し合いながら、チームの力を最大化していくための技術です。本講座では、ファシリテーション技術の一つである「ホワイトボード・ミーティング®」の進行技術の習得をめざします。また、ホワイトボードを使用した合意形成や課題解決に有効な会議フレーム等の進め方を練習し、「主体的・対話的で深い学び」を促進する信頼ベースのアクティブラーニングや授業づくりを体験的に学びます。 ホワイトボード・ミーティング®とは、ホワイトボードを活用して進める会議の方法です。進行役をファシリテーター、参加者をサイドワーカーと呼びます。ファシリテーターが参加者の意見をホワイトボードに書くので、何を話しあっているのかが明確になり、効率的、効果的に会議や授業を含む教育活動が進みます。2003年にちよんせいこ氏（株式会社ひとまち）が開発し、教育など幅広い分野で取り組まれています。児童・生徒の心が温まり、深い対話による授業の実現を目指します。		

02		ファシリテーター養成ーホワイトボード・ミーティング®入門ー	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 大場 浩正 教授	電話 E-mail	025-521-3306 hohba
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 大学生、地域住民、企業等	講義形式	ワークショップ
		講義時間	1時間～3時間（要相談）
注意事項		具体的な内容に関しては要相談	
講 座 概 要	ファシリテーションとは、一人一人の意見を生かし、合意形成や課題解決を進める話し合いの技術であり、私たちが「本来持っている力」を発揮して、みんなで意見を出し合いながら、チームの力を最大化していくための技術です。本講座では、ファシリテーション技術の一つである「ホワイトボード・ミーティング®」の進行技術の習得をめざします。また、ファシリテーターやサイドワーカーの技術を習得し、ホワイトボードを使用した合意形成に有効な会議フレーム等を中心にその進め方を練習します。教師のみならず、児童・生徒がファシリテーターになると授業や学級がアクティブになります。企業では、社内ファシリテーター育成で人材育成・組織開発・会議改革・アイデア創出に貢献します。 ホワイトボード・ミーティング®とは、ホワイトボードを活用して進める会議の方法です。進行役をファシリテーター、参加者をサイドワーカーと呼びます。ファシリテーターが参加者の意見をホワイトボードに書くので、何を話しあっているのかが明確になり、効率的、効果的に授業や会議が進みます。2003年にちよんせいこ氏（株式会社ひとまち）が開発し、教育、ビジネス、医療・福祉、行政、NPO・ボランティアなど様々な分野で取り組まれています。		

※ E-mailはアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jpを加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

03 プログラミング入門および初級講座	
担当講師 (所属・氏名・職名)	副学長／自然・生活教育学系 大森 康正 教授
電話	025-521-3685 (研究室)
E-mail	025-521-3681 (情報メディア教育センター) oomori
受講対象	教員、保護者、地域住民、企業
講義形式	講義・演習
講義時間	1 回 1 時間以上 (複数回にわたる連続講座にも対応します)
注意事項	受講生が使う PC (Windows あるいは Mac) などの実施環境をご準備ください。またインターネットに接続できる環境もご用意ください。
講座概要	2021 年度から小学校から高等学校までプログラミング教育が完全実施されます。本講座では、プログラミング的思考と何か、プログラミング教育は何のために行われるのか、プログラミングって難しいのでは、プログラミングをちょっと体験してみたい、中学校対技術や高等学校情報で扱うプログラミング言語を体験したい、最新のプログラミング言語に学んでみたいなど日頃の疑問に対して、講義、演習を通して学ぶことができます。プログラミングの入門は、ビジュアル系プログラミング言語 Scratch、小型ロボット toio などを使います。初級講座以上は、プログラミング言語 python、Google Apps Script による提携業務の自動化など受講者の希望・経路に応じて実施いたします。

04 プログラミングを行う課外活動等の支援	
担当講師 (所属・氏名・職名)	副学長／自然・生活教育学系 大森 康正 教授
電話	025-521-3685 (研究室)
E-mail	025-521-3681 (情報メディア教育センター) oomori
受講対象	小学生、中学生、高校生 地域住民、企業
講義形式	講義・演習
講義時間	1 回 1 時間以上 (複数回にわたる連続講座にも対応します)
注意事項	受講生が使う PC (Windows あるいは Mac) などの実施環境をご準備ください。
講座概要	小学校から高等学校で行われる課外活動およびクラブ活動などで行うプログラミングについて講師として支援を行います。内容は各学校の実情に合わせて行います。ただし、継続的な活動を行うために PC などのプログラミング環境は学校側で準備をお願いします。 特に上越市・妙高市・糸魚川市を対象に R3 年度から行われている以下のプログラミングコンテスト (本大会 11 月) への出場を目指した支援を行います。競技部門の優勝者は全国大会への出場が可能です。 ・U-16&大人プログラミングコンテスト上越妙高大会競技部門への参加支援 ・Scratch を使ったプログラミングコンテスト作品部門への参加支援 参考：大会 HP http://joetsu.u16procon.org/

05 学習指導要領とこれからのキャリア教育 ～特別活動を要とし、各教科の特性に応じて行うキャリア教育～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授
電話	025-521-3411
E-mail	tomoyuki
受講対象	教員
講義形式	講義
講義時間	1 時間 30 分
講座概要	新しい小中学校の学習指導要領に「キャリア教育」という言葉が加わり、その重要性に対する認識も高まりつつあります。一方、急速に変化する時代の中であって、様々な課題が生まれ、未来への知恵を探る必要性が生じてきています。 本講座では、「特別活動を要とし、各教科の特性に応じて行うキャリア教育」という言葉をキーワードに理論と実践といった2視点を中心に先生方とライブ形式で議論しながら、様々な教育課題にアプローチするキャリア教育の進め方について考えていきます。

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

06		学校教育におけるリスクマネジメントとしての保護者対応	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	教員	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分～2 時間
注意事項	初任者、中堅、管理職など、受講者に応じて内容をアレンジして実施します。		
講 座 概 要	近年、精神疾患による病欠休職者数は全教員に占める割合は約 0.6% (約 5000 人) にのぼります。これは、他の疾病などによるものではなく精神疾患のみの割合です。教員以外の業種では、メンタルヘルス不調により休業した労働者の割合は 0.4% であることから考えると教員の精神疾患での休職は非常に多いものと考えられます。 教員が精神疾患となった原因には様々なものがありますが、主たる原因のひとつに「保護者との関係」があります。近年、学校では「保護者対応が難しくなっている」と考える教員も多く、各教育委員会でも、保護者との関係構築のために、様々なマニュアルや手引書を作成し対応しています。 本講座は、保護者と信頼関係を構築し、円滑な学校運営が図れるよう、特に保護者からのクレーム対応時に焦点をあてて、その心構えと対応の仕方について、講義と演習を交えながら考えていきます。		

07		人生は意思決定の連続！ 会社経営シミュレーションゲームでキャリア（人生）について考える。	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	中学生、高校生	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分～2 時間
注意事項	1) 1 回の講座で実施可能な人数は、36 名～40 名で、インターネット環境の整った教室と 8 台程度の PC (1 人 1 台の PC があればベスト) のご準備をお願いします。 2) 職場体験やインターンシップの事前学習として実施することが適切です。 3) 高校生には、大学授業体験プログラム用に変更して実施することも可能です。		
講 座 概 要	職場体験やインターンシップなど、近年の日本の中・高等学校では体験的な学びを生かしたキャリア教育が様々な進められるようになりました。本講座では、意思決定シミュレーションプログラム※を活用し、会社経営を疑似体験することを通じて思考力、判断力、意思決定力、人間関係形成能力、社会的正義観などを育み、企業活動と「人」との関係について学びます。 ※本講座では、日本ジュニアアチーブメントから提供されたシミュレーション・プログラム MESE (Management & Economic Simulation Exercise) を用いて行います。 ※【講座番号 10】「経済的に自立するってなんだろう？ 生活設計・マネープランゲームで人生とお金について考える。」と抱きかかえて実施すると効果的です。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

08 リーダーシップって何？ ブームワッカーで、リーダーにとって大切なことを考える。			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	中学生、高校生 ※主に中・高校生を対象とした講義と演習ですが、教員研修や企業の社員研修等でも活用できるようにアレンジすることも可能です。	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	1) 1回の講座で実施可能な人数は、20名～60名です。(20名未満だと実施することは難しい内容となっています。) 2) 防音設備のととのった環境であり、かつ参加者が輪になって着席できるスペースがある音楽室のような環境が必要となります。 3) 高校生には、大学授業体験プログラム用にアレンジして実施することも可能です。 4) 教員研修や企業の社員研修等で実施する場合、【講座番号 11】「コミュニケーション」ってなんだろう？ ～よりよい人間関係のために大切なことを考える～と抱きかかえて実施すると効果的です。		
講座概要	本講座は、「リーダーとはこうあるべき」といった「考え方」を提示するものではありません。ドレミパイプ〔ブームワッカー（英語：Boomwhackers）〕というリズム楽器を用いた活動を中心に、組織や集団活動にとって大切なリーダーシップとは何か、リーダーにとって大切なものは何かといったことについて考え、誰もがリーダーとなることの大切さを体感します。		

09 チームワークって何？ ブームワッカーで、チームとは何かを考える。			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	中学生、高校生 ※主に中・高校生を対象とした講義と演習ですが、教員研修や企業の社員研修等でも活用できるようにアレンジすることも可能です。	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	1) 1回の講座で実施可能な人数は、20～60名です。(20名未満だと実施することは難しい内容となっております。) 2) 少人数であれば防音設備のととのった音楽室のような環境、大人数であれば、参加者が輪になって着席できるスペースがある体育館のような環境が必要となります。 3) 高校生には、大学授業体験プログラム用にアレンジして実施することも可能です。 4) 教員研修や企業の社員研修等で実施する場合、【講座番号 11】「コミュニケーション」ってなんだろう？～よりよい人間関係のために大切なことを考える～と抱きかかえて実施すると効果的です。		
講座概要	本講座は、「チームとはこうあるべき」といった「考え方」を提示するものではありません。ドレミパイプ〔ブームワッカー（英語：Boomwhackers）〕というリズム楽器を用いた活動を中心に、組織や集団活動にとって大切なチームワークとは何か、チームにとって大切なものは何かといったことについて考えます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※  マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

10 経済的に自立するってなんだろう？ 生活設計・マネープランゲームで人生とお金について考える。			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	中学生、高校生	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	1) 1 回の講座で実施可能な人数は、36名～40名です。 2) 全体で 150 分に延長すれば、40～50 歳代の生計の講座を加えることも可能です。 3) 高校生には、大学授業体験プログラム用にアレンジして実施することも可能です。		
講座概要	職場体験やインターンシップなど、近年の日本の中・高等学校では体験的な学びを生かしたキャリア教育が様々な進められるようになりました。 本講座では、“生活設計・マネープランゲーム”を活用し、20～30 歳代の生計を疑似体験することを通じて、生計を管理することや経済的自立について考え、将来を見通しながら主体的にキャリア（＝人生）を考えることの大切さについて学びます。 ※本講座では、一般社団法人日本銀行協会からご提供いただいた“生活設計・マネープランゲーム”を用いて行います。 ※【講座番号 7】「人生は意思決定の連続！会社経営シミュレーションゲームでキャリア（人生）について考える。」と抱きかかえて実施すると効果的です。		

11 「コミュニケーション」ってなんだろう？ ～よりよい人間関係のために大切なことを考える～			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 山田 智之 教授	電話 E-mail	025-521-3411 tomoyuki
受講対象	中学生、高校生 ※ 主に中・高校生を対象とした講義と演習ですが、教員研修や企業の社員研修等でも活用できるようにアレンジすることも可能です。	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	1) 1 回の講座で実施可能な人数は、36名～40名です。 2) 高校生には、大学授業体験プログラム用にアレンジして実施することも可能です。 3) 教員研修や企業の社員研修等で実施する場合、【講座番号 8】「リーダーシップって何？ブームワーカーで、リーダーにとって大切なことを考える。」か【講座番号 9】「チームワークって何？ブームワーカーで、チームとは何かを考える。」と抱きかかえて実施すると効果的です。		
講座概要	本講座は、「コミュニケーションとはこうあるべき」といった「考え方」を提示するものではありません。様々な「伝言ゲーム」を用いて、コミュニケーションを体験しながら、よりよい人間関係の形成のために「伝達者として大切なこと」「受信者として大切なこと」について考えていきます。		

12 協働的な学びを育む授業デザインの創造			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 桐生 徹 教授	電話 E-mail	025-521-3436 kiryu
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間～1 時間 30 分
講座概要	授業では、間違えることはできない雰囲気があります。大人の社会でも、それを恐れてしまう人がいます。でも、間違えるからこそ、学ぶことができます。 そんな体験をしながら、来るべき社会に向けた本物の『資質・能力』を考え合います。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ ☐ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

13		紙ペンゲームでクラスづくりコミュニケーション ー楽しく自然にアイスブレイクー	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 小島 伸之 教授	電話 E-mail	025-521-3332 kojima
受講対象	教員、保護者、小学生（高学年が望ましい）、 中学生、高校生	講義形式	実技
		講義時間	1 時間 30 分
講 座 概 要	クラス・学年のアイスブレイク・コミュニケーションは本来自然になされていくものです。一方、そうして自然に形成された関係性においては、接点が少ないクラスメートや同学年生が生じてしまうこともあります。 本講座では、紙とペンを用いたゲームを行うことにより、自然にアイスブレイクや多面的コミュニケーションが可能となり、あまり知らない人と接点を持つだけでなく、よく知っている人の意外な一面を知ることができます。 コミュニケーションを楽しみながら、自然にアイスブレイクを行います。		

14		学びのワークショップ！	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 阿部 隆幸 教授	電話 E-mail	025-521-3512 abetaka
受講対象	小学生	講義形式	演習（ワークショップ）
		講義時間	45 分
講 座 概 要	頭や体を思いっきり使って「学び」を「遊んで」みましょう！ 室内でのアドベンチャー・プログラム、グループ・ワークトレーニング、ものづくり、協同学習などなど、活動的に、かつ、頭を使った学びを繰り広げてみませんか？友達と活動的に学んで気分すっきり！いろんな人と交流するって気持ちいいんですよ！		

15		「協同的な学び」の考え方と技術を身につけよう	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 阿部 隆幸 教授	電話 E-mail	025-521-3512 abetaka
受講対象	教員	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分
講 座 概 要	今、主体的・対話的で深い学びとしてのアクティブ・ラーニングが求められています。教師主導の授業から、学習者（子ども）主体の授業への転換が求められているのです。アクティブ・ラーニングのイメージが持てないという先生方、「協同学習」に触れてみませんか？協同学習の考え方と技術を身につけることで、無理なく学習者に授業の主導権を預けることができるようになっていくことでしょう。		

16		木のおもちゃで遊び、学ぶ	
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 東原 貴志 教授 自然・生活教育学系 吉澤 千夏 教授 学校教育学系 藤井 和子 教授	電話 E-mail	025-521-3405 htakashi
受講対象	幼児、小学生	講義形式	演習
		講義時間	2 時間以上
注意事項	少人数（1 クラスまで）を対象とします。		
講 座 概 要	木のおもちゃで遊び、学びませんか。本講座では幼児から小学生を対象に、簡単な遊びから複雑な立体を組み立てることができる木のおもちゃを提供します。子どもの発達段階に応じた遊びを通して、創造性や協働性を育みます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

17		子どもたちの主体的な学びを支える教師の見取りとフィードバック	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 大島 崇行 教授	電話 E-mail	025-521-3442 oshima
受講対象	教員、支援員	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分（複数回開催により演習や授業研究・協議会にも対応します）
注意事項		※講座の内容の詳細はご相談の上決定します。定期的な開催も可能です。	
講座概要	GIGA スクール構想の中、子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりがますます求められ、各学校で授業実践が積み重ねられています。一方、子どもたちが裁量権を持ち学習活動を進める時間が増えるにつれ、教師は何をすべきなのか、その役割についての問いが生まれます。 その教師の大切な役割の一つとして、学習者の見取り（学習評価）があります。子どもたち主体の学習活動を教師の見取りとフィードバックにより支えることで授業がより充実します。本講義では、その見取りとフィードバックの仕組みと価値について参加者の皆さんと共に考えています。 また、相談により、見取り演習や実際の授業研究・協議会における、見取りとフィードバックを中心とした支援（指導・助言）に発展させていくことが可能です。		

18		自己調整する学びを支える授業デザイン ～授業づくりの考え方・教師の在り方・支え方～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 大島 崇行 教授	電話 E-mail	025-521-3442 oshima
受講対象	教員	講義形式	講義（講義・演習）
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	校内研修・授業研究での授業観察・協議会での助言も可能です。		
講座概要	児童・生徒が主体的に学ぶ授業の実践がますます求められています。そして、教師には、児童・生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されています。しかし、児童・生徒が自己調整しながら学習を進めていく授業とは、どのような授業なのでしょう。また、どのように授業をデザインしたら良いのでしょうか。そして、授業では教師はどのように指導し支援したら良いのでしょうか。 本講座では、「そもそも自己調整する学びとは何だろう」というところから整理し、具体的な授業づくりの考え方や方法、教師の在り方などに迫っていきます。また、その中で、自己調整する学びと、振り返り活動、協働的な学びやICTの活用との繋がりについて、授業でそれらを結びつける方法についても学んでいきます。先生方が日々の授業づくりに前向きに取り組んでいけることを目指す講座です。		

19		遊びを通した学びとは—乳幼児とのコミュニケーションのコツ—	
担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 白神 敬介 准教授	電話 E-mail	025-521-3366 shiraga
受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間～2 時間（ご相談に応じます。）
講座概要	乳幼児期の子どもは、大人とは違ったものの見方や考え方をします。そして、幼児期は、遊びを中心として、主体的に様々な対象と直接かわりながら総合的に学んでいく時期です。「遊びを通した学び」のあり方を知れば、子どもへの関わり方をより深く理解していくことにつながります。この講座では、発達心理学の観点から乳幼児に対する理解を進め、子どもたちとのより良いコミュニケーションの仕方を学んでいくことを目指します。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

20		保育・教育現場におけるメンタルヘルス問題の予防と対処	
講座概要	担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 白神 敬介 准教授	電話 025-521-3366 E-mail shiraga
	受講対象	教員、福祉関係従事者	講義形式 講義・演習
			講義時間 1 時間～2 時間（ご相談に応じます。）
講 座 概 要	保育・教育現場でのメンタルヘルスの問題が深刻な状況になっています。保育、教育に携わることは、子どもたちの成長に関わる大きな責任から、やりがいとともに大変な苦勞があります。もし、それらが精神的負担となり、解消されないまま積み重なっていくと、メンタルヘルスの不調につながる可能性があります。この講座では、メンタルヘルス問題の現状と対応策について理解を進めることで、自身の精神的負担感を適切にケアするための方法を知るとともに、職場の同僚がつかうような様子を見せたとき、どんな関わりをしていくべきかを一緒に考えていきます。		

21		通常の学級における教育的支援を必要とする子の理解と対応	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 関原 真紀 准教授 学校教育学系 坂口 嘉菜 講師	電話 E-mail	025-521-3455/maki 025-521-3675/kana
	受講対象 教員	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間～1 時間 30 分
注意事項		※講座の内容の詳細は、ご相談の上決定します。定期的な開催も可能です。	
講座概要	本講座では、小中学校における特別支援教育の対象となる通常の学級、通級による指導、特別支援学級に在籍する児童生徒の指導や支援の在り方を考えます。主に発達障がいや聞こえ・学習に困難のある子どもの困難さの理解や改善・克服の基本的な考え方について理論的な内容を共有し、各学校や学級、児童生徒の実態に応じて指導計画の作成等の演習を行いながら理解を深めます。		

22		愛着（アタッチメント）を育む ～愛着に問題がある子どもの対応を考える～	
担当講師 (所属・氏名・職名)		発達支援・心理臨床教育学系 飯塚 有紀 准教授	電話 025-521-3322 E-mail yuki
受講対象		教員	講義形式 講義・演習等
			講義時間 1 時間 30 分
注意事項		場合によっては、当方が行う調査の質問紙に回答を求める場合がありますので、ご協力をお願いいたします。また、自動車運転技術に不安があるので、冬季は遠方での開催は難しいと考えています。	
講座概要	親が不安を過剰に抱えたまま子育てを行うなど子育てを取り巻く様々な状況の憎悪や、子ども虐待・ネグレクトの件数の増加、厚生労働省の『子ども虐待対応の手引き』の中で、『愛着障害』についての記述がされたことなどを背景に、これまで発達心理学の一部の専門家の間での用語であった、『愛着（アタッチメント）』や『愛着障害』に対する関心が高まっています。しかし、『愛着（アタッチメント）』や『愛着障害』への正しい理解がされているとは言えない状態も見受けられます。 そこで、本講座では、『愛着（アタッチメント）』についての基礎的知識や明らかになっている様々な知見について概観します。また、安定した『愛着（アタッチメント）』を育むための方策、『愛着障害』を呈している子どもに対応する際の注意事項などについてみていきます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

23		発表アイデアが浮かぶ！まとまる！ファシリテーション講座	
講座概要	担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教員養成・研修高度化センター 阿部 雅也 准教授	電話 E-mail 025-521-3401 abemasa
	受講対象	教員、中学生、高校生	講義形式 演習 講義時間 50分（50分を基本に、長くても短くても何分でもOKです。）
注意事項		時間や内容は応相談。グループワーク→発表まで行くのであれば、2コマ連続など、長くなってもOKです。内容も、例えば「英語で地域の魅力を発信」「地域課題を解決する新商品ブランディング」など学校で取り組まれている探究学習やご希望にオーダーメイドで対応します。思考ツールの活用を体験する教員研修にも対応可。まずはメール・電話等でご相談ください。	
講 座 概 要		実社会で求められるのは、他者との対話・協働を臨機応変に持続できるファシリテーション力やコミュニケーション力。「でも、うちの生徒は大人しい生徒が多くて発表が心配…」本講座ではそんな学校向けに、生徒の発表練習を支援します。例えば、各学校で予定している探究学習の年度末発表等（本番）に向けて、ミニ発表（練習版）を類似テーマで設定し、本番に向けて発表練習を支援します。議論を可視化する思考ツールを活用しながら、意見を出し合っ合意形成、グループ発表するプロセスを体験してもらうことで、発表本番に向けた様々なスキルを身につけるお手伝いをいたします。	

24		ゲームやデジタル機器との上手な付き合い方を考える	
講座概要	担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 田中 圭介 准教授 芸術・体育・教科横断・総合教育学系 清水 雅之 教授	E-mail keisuke masayuki
	受講対象	中学生、高校生	講義形式 講義・演習 講義時間 1時間程度から調整可能です。50分×2コマ以上の実施が望ましく、複数日を跨ぐ連続した講座（最大4時間程度）も可能です。
注意事項		・講座は田中准教授が主に担当します。講座に関するお問い合わせは田中准教授までお願いいたします。 ・取り組みに関心をお持ちいただける場合には、より効果的な予防教育の実践のため、複数回の講座もご検討いただけますと幸いです。 ・講座に際して、生徒へのアンケート調査を依頼させていただくことがございます。なお、研究協力の可否とは関係なく、講座はお引き受けいたします。	
講 座 概 要		近年、子どものゲームやPC・スマートフォンなどのデジタル機器ならびにインターネットの過剰使用・問題使用が世界的にも注目されています。当講座では、中学生や高校生を対象に、ゲームやデジタル機器の利点や欠点、自らの普段の使用状況について考えてもらう機会を提供し、臨床心理学の知見を基に作成した予防教育を実施します。希望される講座時間数に応じて、ゲーム時間を削減する行動計画の立案やストレス対処の促進のためのワーク（マインドフルネス）も取り入れます。	

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※  マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

☐ 25		メンタルヘルスの予防と対策 ―教職員のストレスチェック結果の活用に向けて―	
担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 宮下 敏恵 教授	電話 E-mail	025-521-3363 miyasita
受講対象	教員	講義形式 講義時間	講義・実習 50分～1時間30分（ご要望にあわせて調整します。）
注意事項	ストレスチェックシステムの質的向上およびメンタルヘルスに関する学術研究のために、チェックしていただいた結果を蓄積させていただきますことをご承願います。この場合、データは統計的に処理されますので、個人や所属が特定されることは一切ありません。 なお、ストレスチェックの分析には、滋賀大学データサイエンス学部・奥村太一准教授（前上越教育大学学校教育学系准教授）、足利大学・森慶輔教授より協力いただきます。		
講座概要	学校全体（小中高校特別支援学校）での働き方改革とメンタルヘルス対策の一環として、ストレスチェックの結果をもとに、今後の予防と対策についての支援を行います。 本講座では職員研修において、ストレスチェックを活用したメンタルヘルスの予防や対策などについての講義や演習を行います。また、我々の研究グループが作成した教師用ストレスチェックシステムも実施していただくことで、各自のストレスの変化を学期ごとに結果を比較するなど、セルフチェックを行うことも可能です。 またご要望に応じて、ストレスチェックの集団分析結果を活かした学校運営等、管理職等の少数の研修や相談にも対応いたします。		

☐ 26		心配と心の健康	
担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 田中 圭介 准教授	E-mail	keisuke
受講対象	教員、保護者、小学生（高学年）、中学生、高校生、地域住民、企業	講義形式 講義時間	講義・演習 （簡単なワークやエクササイズ） 1時間～1時間30分
注意事項	講演内容は、相談により決定します。心配やストレス以外にも、ポジティブな学級づくり、社会的スキル、問題解決スキル、強みの活かし方、マインドフルネス、持続的幸福の作り方など、ストレスを取り巻く様々なテーマに対応します。出前講座の実施に際して、研究室の研究活動（児童生徒へのアンケート調査等）にご協力をお願いする場合がございます。		
講座概要	普段の生活の中で様々な心配事に遭遇することがあります。勉強、人付き合い、健康、お金など、日常生活を取り巻く色々なことが心配の種になりえます。根強い『心配性』はストレスとなり、心や身体、生活リズムに様々な影響を与えます。 しかしながら、心配をすることは、本来、私たちが生きる上で必要不可欠な「力」であると考えられています。上手く付き合うことができれば、心配性は決して嫌悪すべきものではありません。そこで、本講座では、心理学の観点から「心配とは何か」について解説し、その上で、「心配性と上手に付き合っていく方法」のヒントを認知行動療法と呼ばれる心理療法のテクニックをもとに紹介します。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ ☐ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

27 チームで進める特別支援教育	
担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 笠原 芳隆 教授 学校教育工学系 藤井 和子 教授
電話	025-521-3387/kasahara
E-mail	025-521-3388/fkazuko
受講対象	教員、保育士、福祉・療育機関職員等
講義形式	講義・演習
講義時間	1 時間～2 時間程度（ご相談に応じます。）
講 座 概 要	障がいのある子どもたちの抱える生活上や学習上の困難は千差万別であり、その困難を改善・克服するための指導・支援のあり方にも唯一絶対解はありません。そのような中で、より個に応じた適切な指導・支援を行うためには「チーム力」を発揮しつつ、指導・支援の計画＝個別の指導（支援）計画を具体的に作成し、活用することが大切です。 本講座では、はじめに特別支援教育における障がいのある子どもの困難改善・克服の基本的な考え方を論述し、その上で、「チーム力」を生かした個別の指導（支援）計画の作成とその活用について、演習を行いながら理解を深めます。 立派な計画を作成することではなく、作成を通して子どもに関係する「人」が情報を共有し、アイディアを出し合ってよりよい指導・支援が進められるようになることを目指します。 ※講座の内容の詳細は、ご相談の上決定します。

28 緊張をゆるめて姿勢やからだの動きをよくしよう！	
担当講師 (所属・氏名・職名)	発達支援・心理臨床教育学系 笠原 芳隆 教授
電話	025-521-3387
E-mail	kasahara
受講対象	教員、保育士、福祉・療育機関職員等、保護者
講義形式	講義・実習
講義時間	1 時間～1 時間 30 分程度（ご相談に応じます。）
注意事項	からだを動かしたり横になったりできるスペースがあるとよいです。
講 座 概 要	障がいのある子どもたちの中には、からだ緊張して座位や立位の姿勢がうまく取れなかったり、スムーズに歩くことができなかったりする子もいます。また、障がいなくても、座位姿勢が崩れたりさまざまな日常動作にぎこちなさを持っていたりする子もいます。 本講座では、はじめに特別支援教育における障がいのある子どもの姿勢や動作上の困難改善・克服の基本的な考え方である動作法について論述します。その上で、障がいの有無にかかわらずさまざまな状態の子どもや大人を想定し、「からだの緊張のゆるめ方」や「よい姿勢のとり方」、「柔軟で適切なからだの動かし方」などについて、簡単な実習または事例検討をとおして理解を深めます。 一回のかかわりで子どもたちのよい姿勢や適切なからだの動きを維持するのは難しいことが多いので、学校などで継続して取り組むことができるような実習を行いたいと考えています。 ※講座の内容の詳細は、実情に合わせてご相談の上決定します。

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

29		書写指導の考え方と「文字を書くこと」の基礎	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 押木 秀樹 教授	電話 E-mail	025-521-3317 oshiki
受講対象	教員	講義形式	講義
		講義時間	1 時間 30 分
注意事項	この講座では毛筆等の実技を予定していません。毛筆実技の講座や、硬筆による行書実技等の講座も可能ですので、ご希望の場合は別途お問い合わせ下さい。		
講座概要	「漢字テストの〇×と書写はどう関係するの?」「子供たちの書いている様子が気になるのだけれど、どうすればよいの?」といった声が聞かれます。この講座は、小学校、中学校国語の先生方を対象として、漢字や書写についての基礎的な内容を扱います。 子どもたちの鉛筆の持ち方や書く様子が違和感があったり、整った字が書けていないと思うことはないでしょうか。書写の指導で改善するにはどうしたらよいのか、ICT 機器の普及する現代、日常に生かせる、文字を書く学力の向上のために、ともに考えさせていただけたいと思います。 国語科書写も、単なる練習から、子どもたちが考え実現できる学習活動へと変わってきています。また子供たちの字の良い個性は残しつつ、改善を図れないでしょうか。なお、ご希望によって2016年文化庁から出された指針に伴う「漢字の〇×の規準?」の件にも対応したいと思います。		

30		ラップ群読で音韻意識を高めよう ～ことばの表現は音の響きとリズムが大切～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 片桐 史裕 教授	電話 E-mail	025-521-3513 katagiri
受講対象	中学生、高校生	講義形式	演習・実技
		講義時間	1 時間 30 分以内
注意事項	群読脚本を作成する時の会話や群読発表を1Cレコーダーやビデオで記録させて頂くことをご了承ください。 日程調整や旅費など、事前に katagiri@juen.ac.jp または、025-521-3513 まで必ずお問い合わせください。調整後、正式に担当者にお申し込みいただくと、スムーズに手続きが進みます。 合計で1時間30分を超える場合はお問い合わせください。		
講座概要	群読は声の文化活動です。複数人数で声を合わせたり、ずらしたり、だんだん重ね合わせたり、少なくしたりという技法を使って、文字で書かれた文学の世界を演じることで、ことばの世界が立体的に、色鮮やかにイメージできるようになります。 また、群読脚本を作成し、音の響きに注目することで、作品世界を具体的にイメージしたり、言葉を取捨選択することにより、音声言語の機能を意識したりできるという「音韻意識」の向上に繋がっていきます。 講座では音読の効果を体験し、ラップ群読脚本を作り、演じる活動をゴールに据えたものとなります。		

31		言葉による見方・考え方を働かせながら学びを深める国語単元学習	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 古閑 晶子 教授	電話 E-mail	025-521-3385 koga
受講対象	教員	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間 30 分～2 時間
講座概要	単元レベルで国語の学習過程をデザインするとき、どのような子どもの姿を描き出しますか。本講座では、子ども個々が自らの言葉による見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的に学びを深めていく国語学習のデザインの仕方や手立てを演習を交えて紹介します。言葉による見方・考え方のズレが生起する課題や問い、対話や思考などに着目しながら、一緒に学習過程を見つめたり、手立てを考えたりしていきます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

32		ちょっと気になる国語の話	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 舩城 梓 講師	電話 E-mail	025-542-3575 azusa
受講対象	保護者、地域住民、企業、幼児、小学生、 中学生、高校生	講義形式 講義時間	講義・演習のいずれでも可 45分、1時間30分、1時間45分 等いずれも可
注意事項	「国語」科目に関係のある話であれば、比較的幅広く講義内容を変更することが可能ですのでご相談ください。		
講 座 概 要	本出前講座は、国語科目に関連する大学での学びの一部を取り上げて、改めて日本語について考えを深めることを目的とします。日本で生きていけば、日ごろから普通に使っている日本語。大学での学びでは、日本語や日本文学の仕組みを俯瞰的に学ぶことが多くなります。その中で見えてくることは、実は誰もが日本語や日本文学のことを良く知らない、ということです。例えば、国語と日本語はどう違うか。敬語の仕組みは誰が決めているのか。漢字の「学」という字はなぜ「學」と書くこともあるのか。なぜ小説を読むとき、登場人物の「思っていること」「感じたこと」をしつこく聞かれるのか。古典のどこがおもしろいのか。漢文をなぜ勉強するのか、等々。近くて遠い日本語・日本文学と改めて仲良くなってみましょう。		

33		小学校・中学校・高等学校における 「主体的・対話的で深い学び」を目指した英語授業づくり	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 大場 浩正 教授	電話 E-mail	025-521-3306 hohba
受講対象	教員、大学生、大学院生	講義形式 講義時間	講義・ワークショップ 1時間～3時間（要相談）
注意事項	具体的な内容に関しては要相談		
講 座 概 要	小学校・中学校・高等学校の英語授業づくりについて、講義とワークショップを通して体験的に学びます。英語科において、新しい学習指導要領による、言語活動を通じたコミュニケーションを図るための資質・能力の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」をどのように具現化していくかを考えていきます。 協同学習、ファシリテーション、プロジェクト型探求学習（PBL）等、良好な人間関係を基盤にした学習者同士のインタラクティブな活動など、校種に合わせた活動を紹介し、体験していきます。また、パフォーマンス課題や評価方法についても考えます。		

34		英語音声学	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 橋本 大樹 准教授	電話 E-mail	025-521-3327 daiki
受講対象	教員、高校生	講義形式 講義時間	講義 1時間、1時間30分
講 座 概 要	本講座では3つの観点から英語の発音を紐解きます。まず綴りと発音の関係について説明します。英語では綴りと発音の関係が一対一にはなっていません。例えば boot, foot, blood は <oo> という綴りが共有されていますが、それぞれ異なる母音音素を含んでいます。綴りと発音記号を対応させながら、両者の関係を学びます。次に我々が音声を発音する際に、どのような調音運動が口の内で起きているかについて説明します。音声産出には、声帯の振動による音産出と舌・顎の動きによる声道の調節が関わっています。写真と動画を交えて調音の様子について説明します。最後に英語に見られる方言ごとの発音の違いについて説明します。英語は様々な国で発音されますが、地域によってその発音は大きく異なります。例えば hot の母音はイギリスでは日本語の「お」に近い発音ですが、アメリカでは日本語の「あ」に近い発音です。実際に各方言の音声を聴きながら差異について学びます。この様に本講座では、綴り・調音運動・変異の3つの観点から英語音声学について学びます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

35		英語耳？ 英語脳？ スイッチONのコツ 教えます！	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教員養成・研修高度化センター 阿部 雅也 准教授	電話 E-mail	025-521-3401 abemasa
受講対象	教員、中学生、高校生、地域住民、企業	講義形式 講義時間	演習 50分(50分を基本に、長くても短くても何分でもOKです。)
注意事項	英検などの外部試験対策に特化して(LSWを個別にor組み合わせて)の対応も可。また、英語科の先生方向け校内研修にも対応します。まずはメール等でご相談ください。		
講座概要	「英語が聞きとれない…」「話すネタが頭に浮かばない…」こんな経験、ありませんか？英会話は相手のボールをキャッチする所から。本講座では普段おなじみの教科書や音声教材を使った最新のトレーニング法を体験しつつ、英語が劇的に使えるようになるコツを、応用言語学の視点から伝授します。		

36		はじめての英語多読	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 渡邊 政寿 准教授	電話 E-mail	025-521-3573 masatosi
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、地域住民	講義形式 講義時間	講義・演習 1時間30分(応相談)
注意事項	用意できる本に限りがありますので、3クラス(120人程)まで対応可能です。		
講座概要	英語の本を読むというとまず難しいと思う方が多いと思います。多読3原則(・辞書は引かない・わからないところはとばす・合わなければやめる)に則って、ご自分の興味・関心に沿って行えば、それほど難しいものではありません。講座では、前半に多読のやり方や多読の効果を実証します。後半は実際に皆さんの好きな本を選んで、読んでもらいます。こちらで多読専用図書(絵本から中級レベルの本やイギリスの小学校における国語の教科書など)を用意します。少しでも興味のある方は、ぜひトライしてみましょう。Let's enjoy reading!		

37		身近な地域の地図を活用した社会科・地理学習	
担当講師 (所属・氏名・職名)	副学長／人文・社会教育学系 志村 喬 教授	電話 E-mail	025-521-3339 shimura
受講対象	教員、中学生、高校生	講義形式 講義時間	講義・演習(講義または演習のみも可) 3時間(講義1時間30分、演習1時間30分)
講座概要	今日の社会科・地理学習では地理的技能を身に付けることが重視されています。地理的技能の内容は幅広いものですが、その中心は地図の描図・作図・読図といった技能と、フィールドワーク遂行の技能で、これら技能は身近な地域の地図をフィールドワークと関連づけながら学習することが効果的です。 そこで本講座では、①教材となりうる上越地域に関する地図情報を提示した後、②それら地図を用いてどのような学習が可能か簡単な作業も交えながら検討します。③さらに時期・場所的に可能ならば、演習として会場周辺で徒歩による簡単なフィールドワークを実施し理解を深めます。		

38		学校『地図帳』から学ぶ地理の世界	
担当講師 (所属・氏名・職名)	副学長／人文・社会教育学系 志村 喬 教授	電話 E-mail	025-521-3339 shimura
受講対象	教員、保護者、地域住民、企業	講義形式 講義時間	講義 1時間
講座概要	あまり知られていませんが、小・中・高等学校の社会科(地理・歴史科)で配布される学校用『地図帳』も法的に教科書で、文章主体の「教科書」とは異なる社会的情報を満載しています。その豊富な内容は、学校卒業後も十分価値を持っています。本講座では、現在使われている『地図帳』、過去に使われた『地図帳』を紹介し、それらから日本と世界の地理今昔を読み解いていきます。		

※ E-mailはアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jpを加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

39		アフリカってどんなところー豊かな自然とそこに暮らす人々ー	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	講義形式	講義
		講義時間	1 時間～1 時間 30 分（相談の上決定）
講 座 概 要	アフリカは、日本から距離的に離れた地域であり、自然や文化も大きく異なります。また、紛争や貧困、砂漠化など、様々な問題を抱えている地域でもあります。グローバル化した世界の中で起こっているこれらの問題は、決して日本と無関係ではありません。しかし、一般にアフリカのことは良く知られていません。 本講座では、ナミビア、ボツワナ、南アフリカ共和国、セネガル、ケニア、タンザニア、チュニジアなどのアフリカ諸国における担当者の海外調査の経験を中心に、アフリカの豊かな自然とそこに暮らす人々について紹介します。また、アフリカに現在生じている様々な問題と、アフリカと日本との関りについて考えます。		

40		地域の災害に備える	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義・演習
		講義時間	1 時間～2 時間（相談の上決定）
講 座 概 要	日本では、毎年いくつもの災害が発生しています。日本は、世界の中でも多様な災害が高い頻度で発生する地域です。そのため、日本列島で生活する私たちは、そうした災害と折り合って暮らしていかなければなりません。そのために、まず必要なのは、災害や、災害を引き起こす現象について、よく知るということです。 例えば、地震災害は、主に地震動（揺れ）によって引き起こされます。しかし、それぞれの地震災害によって、災害の様相は異なります。これは、地震災害の被害が生じる過程に、地域の自然的および人文・社会的な条件が作用しているからです。そのため災害を知るということは、地域を知るということにつながります。 本講座では、地域で生じる可能性がある災害の特徴を確認し、その影響範囲と対策について考えます。1 コマの講演の形で実施できますし、複数コマで実施できる場合には、町歩きを取り入れたり、図上訓練（DIG）や防災訓練と組み合わせることも可能です。		

41		歩いて見よう高田城下町の地形	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	野外巡検または講義
		講義時間	1 時間～3 時間（相談の上決定）
講 座 概 要	今から約 400 年前、松平忠輝は、海岸付近にあった福島城から高田に城を移しました。その理由は、高田の地形が城の守りを固めるために適していたからだと考えられます。一見、とても平坦に思える高田市街地周辺の地形も、詳しく見ると微妙な凸凹があることに気がつきます。こうした凸凹は、川がつくった地形です。高田城は、この地形をうまく利用し、さらに人為的な改変を加えて守りを固めています。一方、川沿いに城を造ったため、高田城下町は、水害と戦わなければならなくなりました。しかし、高田城下町は、地形を考慮して、うまく水害を避けられるようにつくられています。 本出前講座では、実際に高田城下町を歩いて地形を観察しながら、江戸時代の人々の知恵と工夫を知るとともに、上越地域の自然について学びます。町歩きのコースは相談の上で、決定します。また、野外巡検ではなく、高田城下町の成り立ちと地形との関係を講義形式で説明することもできます。春日山城や福島城とあわせてお城と地形との関係をお話することもできます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

42		簡単な地理情報システム（GIS）を活用したオリジナル地図作成	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail 025-521-3331 kotaro
	受講対象	教員、中学生、高校生	講義形式 講義・演習
			講義時間 1 時間～4 時間（相談の上決定）
GIS（地理情報システム）とは、地理的位置を手がかりに、様々な情報を管理・加工し、視覚的に表示、分析する技術です。近年、地理学における重要なツールとして注目されています。また、すでにカーナビゲーションシステムや電子地図などの形で実社会の様々な分野で活用され、学校教育現場での取り組みも始められています。本講座では、簡便なフリーのGISソフトを紹介し、GISを使用した地理情報の提示や、オリジナル地図作りを体験します。また、国土地理院が提供しているweb上のGISである地理院地図を使った事例も紹介します。			

43		地球温暖化：なぜおきる？何がおきる？	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail 025-521-3331 kotaro
	受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式 講義・実験
			講義時間 1 時間～2 時間（相談の上決定）
地球温暖化に対しては、喫緊のグローバルな環境問題として国際的な取り組みが行われているところです。しかし、その深刻さについては、日本にいと、いまひとつびんと来ない部分があるのではないのでしょうか。しかし、世界には、すでに人の生死に関わる深刻な事態に至っているところも多く存在します。これまで、担当者は、寒冷地域（ロシアカムチャツカ半島）、熱帯高山（アンデス山脈、ケニア山、キリマンジャロ山）や、乾燥地域（ナミビア）など、自然環境が厳しい地域で調査を行ってきた中で、地球温暖化の深刻な影響をいくつか見てきました。 本講座では、実験を通して地球温暖化のメカニズムを理解してもらいながら、担当者が見てきた現場を含めて、世界における地球温暖化の現状を紹介します。また、温暖化の日本への影響や、世界的に深刻な問題となる水の問題、食糧の問題について説明します。その上で将来に向けて私たちがどのような取り組みを行うべきかを考えたいと思います。			

44		発展途上国からSDGsを考える	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail 025-521-3331 kotaro
	受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式 講義・演習
			講義時間 1 時間～2 時間（相談の上決定）
SDGs（Sustainable Development Goals）とは、地球環境に配慮しながら持続可能な暮らしや社会を営むために、先進国も発展途上国も含めた全世界が取り組むべき国際目標です。すなわち、地球が今日抱える様々な課題を解決するための目標です。世界には、これらの課題が、極めて深刻な状況にある地域や国が多くあります。しかし、先進国であり、自然環境が豊かな日本では、そうした深刻な状況を感じにくいところがあるかもしれません。 本講座では、担当者がこれまで調査してきた発展途上国における環境問題や地域問題（地球温暖化によるアンデス山脈や東アフリカにおける氷河縮小とその影響；南部アフリカにおける砂漠化と水問題；アムール川流域の開発とオホーツク海の海洋資源；極東ロシアにおける森林破壊；アフリカにおける貧困や差別の問題など）を通して、SDGsの目標と意義について理解し、日本との関わりや、私たちのできることについて考えます。			

※ E-mailはアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jpを加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

45		世界の国歌を学ぼう	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 小島 伸之 教授	電話 E-mail	025-521-3332 kojima
受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間 30 分
講座概要	オリンピックやワールドカップやWBCなどの機会に、世界のいろいろな国の国歌を聞いた経験は誰にでもあると思います。一方、その歌詞の内容については意外と知らない人が多いのではないのでしょうか。 各国の国歌には様々なタイプのものであり、それぞれその国の歴史を反映し、「その国のかたち」を示す内容が含まれています。世界の国歌の歌詞には、意外な内容なものも多く、多くのドラマが潜んでいます。 国歌の歌詞を知ることを通じて、世界の社会の成り立ちやありかたを学ぶことができます。 この講座では、世界のいろいろな国の国歌を、その歌詞を参照しつつ実際に聞きながら、世界の国家やその歴史について、比較をしながら学びます。		

 46		戦後日本の巨大ロボットアニメー社会とその変化との関係からー		
担当講師 (所属・氏名・職名)		人文・社会教育学系 小島 伸之 教授	電話 E-mail	025-521-3332 kojima
受講対象		教員、高校生、地域住民、企業	講義形式	講義
			講義時間	1 時間 30 分
講座概要	日本初のTV アニメシリーズである「鉄腕アトム」(1963 年放映開始)以降、ロボットアニメは日本アニメを代表するジャンルの一つであり続いています。それらのうち、「マジンガーZ」(1972 年放映開始)に始まる、搭乗型の巨大ロボットが登場するアニメー巨大ロボットアニメーは、日本ではメジャーなアニメジャンルとして確立しています。他方、世界では「ロボット」といえば自律型のものを指すことが一般であり、搭乗型の「ロボット」という概念が一般的となっている日本の状況は実はきわめて特殊なのです。 本講座ではロボットという用語を初めて用いたチェコの作家カレル・チャペックから、その影響を受けた手塚治虫を介して、日本の巨大ロボットアニメに至る過程について、社会的歴史的文化的背景と関連付けながら説明をします。			

47		知識基盤社会における教育の世界的動向	
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教育学系 大前 敦巳 教授	電話 E-mail	025-521-3380 ohmae
受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間 30 分程度
注意事項	講義内容（学校段階、内容の焦点など）は、受講者の要望に応じて相談して決めることができます。		
講座概要	本講座は、グローバル化に伴う知識基盤社会への移行に向けた教育政策、OECD・ユネスコなどの国際機関における教育課題、特にフランスの移民と教育の問題に焦点を当てた学力向上策を題材に、国際的な視点から教育の動向を紹介しディスカッションを行います。 具体的には、OECD-PISA 学習到達度調査で測定される知識技能を社会に活用する能力（コンピテンシー）、国際連合で 2030 年に向けて策定された「持続可能な開発目標（SDGs）」、日本の科学技術計画（Society 5.0）に向けた教育政策、多文化社会に直面するフランスの学校教育事情などの問題を取り上げます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

48 SDGs 入門～身近な所から考える自分・地域・世界のつながり～			
担当講師 (所属・氏名・職名)	学校教員養成・研修高度化センター 阿部 雅也 准教授	電話 E-mail	025-521-3401 abemasa
受講対象	教員、中学生、高校生、地域住民	講義形式	演習
		講義時間	50 分（50 分を基本に、長くても短くても何分でも OK です。）
注意事項	使用言語は日本語ですが、一部に英語の動画や文献紹介も含まれます。		
講座概要	「SDGs、よく聞けど、中身はよくわからない...」「SDGs ってなあに？と小学生に聞かれても自信が...」本講座では、そんな皆さんと、今さら聞けないSDGsを、基本の「キ」から学びます。まず、身近な暮らしから、世界とのつながりを実感。グループで考えながら、持続可能な未来作りのために、個人・家族レベルで今からできることを探究しましょう！		

49 中東での暮らしと人びとの習慣～ヨルダンを中心に～			
担当講師 (所属・氏名・職名)	国際交流推進センター 藤谷 元子 准教授	電話 E-mail	025-521-3373 fujitani
受講対象	教員、地域住民、企業、中学生、高校生	講義形式	講義
		講義時間	1 時間
注意事項	講座形式は、ご相談に応じ、一部演習形式を含むこともできます。		
講座概要	中東の地域や国々には、どのようなイメージがあるでしょうか。また、中東の一国であるヨルダンについて、どのようなことをご存じでしょうか。 この講座では、担当者がかつて仕事で滞在した中東の一国であるヨルダンの基本的な情報とそこに住む人々の飲食を中心とした暮らし・習慣やヨルダン人をはじめとする中東の人々や出会った際、知っておいていただきたいマナー等を紹介します。ヨルダンでは、日本人にとってあまりなじみがない宗教を信仰している人々が存在しています。多少なじみのある宗教でも、日本で目にする形態とは、かなり違う形で信仰されていることがあります。異文化理解という点から、ヨルダン人をはじめ中東の人々と交流する際、必要な言語（アラビア語・英語など）にも可能な範囲で触れつつ、マナー等について、主に講義者の体験の視点で説明し、受講者の方々にもできる範囲で考えていただきます。		

50 黄金比とフィボナッチ数列など			
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 林田 秀一 教授	電話 E-mail	025-521-3439 hayasida
受講対象	保護者、中学生、高校生、地域住民	講義形式	講義（講義・演習・実技等）
		講義時間	1 時間 30 分
講座概要	黄金比は、1 対 1.618... で定義される比で、古代の建築物や美術作品などにも取り入れられており、黄金比は美しい比率とされています。なぜ、人間が黄金比を美しいと感じるのか、については分かっていませんが、黄金比に現れる実数は数学的にきちんとした性質を持っていることが示せます。例えば、1.618... の小数部分 0.618... は 1.618... の逆数となっていることや、一辺が1の長さを持つ正五角形に現れること、などです。黄金比と深く関連して、フィボナッチ数列という数列があります。1、1、2、3、5、8、13、... と続く数の列で、松かさや、ひまわりなど、自然の中にこの数列を見ることができます。 黄金比とフィボナッチ数列の関連を中心に、お話ししたいと思います。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

51 雪国の植物			
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 五百川 裕 教授	E-mail	iokawa
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	講義
		講義時間	1 時間
講座概要	雪国の植物を調べると、雪に耐える姿と、雪を利用する姿とがあることに気付きます。上越地方でも比較的積雪が少ない海岸沿い等に自然な生育地が限られる植物は、場所を選ぶことで雪国の厳しい環境に耐えて生育している植物であると考えられます。一方、雪深い山地にまで生育する常緑の低木や野草は、冬の寒さを雪の下になることでしのいでいる植物です。積雪下では、雪の断熱効果により氷点下になりにくいので凍害を免れ、乾燥や風害からも身を守ることができます。この講座では、多くの植物の生態写真を用いて、雪国の植物の特徴を平易に解説します。		

52 身近な植物観察			
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 五百川 裕 教授	E-mail	iokawa
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	演習
		講義時間	1 時間～2 時間
講座概要	校庭から里山まで植物の生育している所ならどこでも、ご希望の観察地にお邪魔して、身近な植物の観察のポイントを解説します。名前を覚えることよりも、それぞれの植物の形の持つ意味や、生活様式の巧妙さ、植物同士や昆虫をはじめ他の生物との関わりの面白さを理解してもらえたいことを目標とします。		

53 海外植物調査の実際 (ネパール・ムスタン地域の植物相調査を例として)			
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 五百川 裕 教授	E-mail	iokawa
受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間
講座概要	国際学術調査としての海外における植物調査が、どのように行われているのかを、ネパールのムスタン地域での実例をあげて紹介します。ムスタン地域は、政治的事情等により外国人の立ち入りが規制されてきたために、近年まで植物を含む国際学術調査が充分に行われてきませんでした。ヒマラヤ山脈の標高 2500m 以上の高地にありながら、気温は比較的温暖であるものの、降水量が少なく極めて乾燥した独特の気候と、そこに生育する植物と動物の関係をなどを、写真とビデオを使って平易に解説します。		

54 上越市の絶滅危惧植物			
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 五百川 裕 教授	E-mail	iokawa
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間
講座概要	上越市版レッドデータブック作成のための調査結果に基づき、上越市内に生育する植物のうち、環境変化等により減少し絶滅のおそれのあるものが多数ある現状を、実例を写真で示しながら紹介し、生物多様性の保全の意義や方策について、平易に解説します。身近な地域、各區ごとに焦点を絞った講座も対応が可能です。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

55		ぴかぴか泥団子をつくろう	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	幼児、小学生、中学生、高校生	講義形式	実験
		講義時間	1 時間～2 時間（相談の上決定）
講 座 概 要	本講座では、1 時間程度で固くてピカピカの泥団子がつくれる方法で、実際に泥団子づくりを楽しみます。泥団子の材料となる土壌は、陸上生態系の中できわめて重要な役割を果たしています。また、農業生産の基盤などとして人間生活との結びつきも大きい環境構成要素です。しかしながら、一般の土壌への関心は必ずしも高くはなく、土壌と触れ合う機会も減ってきているようです。本講座では、泥団子作りを通して子供たちに土（自然）と触れ合い、土（自然）に関心を持ってもらう機会としてもらいたいと考えています。 さらに中学生、高校生には、泥団子づくりを通して土壌の特徴や機能についても説明します。土壌は様々な大きさの粒子から構成されます。そのうち 2μm 以下の粘土粒子の大部分は、風化作用で生成された粘土鉱物で構成されています。この粘土鉱物が、泥団子が固まったり、光ったりすることに重要な役割を果たしています。粘土鉱物について知ることは、土壌だけではなく環境の理解につながります。 これまでに、幼稚園、小学校、中学校、高校、子供が参加するイベントなどで実施してきました。		

56		活火山妙高山を見に行こう	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	野外巡検
		講義時間	2 時間～4 時間（相談の上決定）
講 座 概 要	妙高山は、焼山と同様の活火山で、将来噴火する可能性が想定されています。山麓や周辺に暮らす私たちは、噴火災害のリスクを背負うとともに、温泉や地熱、美しい景観等、火山の恵みも享受しています。活火山妙高山とうまく共存していくためには、妙高山のことを良く知ることが重要でしょう。もし、妙高山が噴火したらどういったことが起こるのか？本講座では、実際に過去の噴火で噴出された噴火堆積物を野外で観察しながら、妙高山形成の歴史と噴火現象について学びます。 時間や見学場所については相談させていただきます。また、公共交通が不便な場所を移動しますので、移動手段についても相談させていただきます。		

57		実験で知る地形のでき方	
担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail	025-521-3331 kotaro
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生	講義形式	講義・実験
		講義時間	1 時間～2 時間（相談の上決定）
講 座 概 要	地形は、人間生活が行われる舞台であり、私たちの暮らしと地形とは密接な関わりがあります。したがって地形の成り立ちを知ることは、生活や防災など様々な面で役に立つものと思われます。しかし、地形を形成する現象は、時間、空間スケールが大きいため、理解しにくい面があるようです。そこで、本講座では、実験を取り入れて、わかりやすく地形のでき方を説明します。具体的には、川のはたらきと扇状地や段丘のでき方、海岸段丘のでき方、水中での地層のでき方、斜面の浸食と地すべりのメカニズム、火山噴火のタイプと火山地形、断層や褶曲のでき方、地震に伴う液状化現象などについて実験を通して観察、理解します。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※  マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

58		地域の地形・地質の野外観察	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	人文・社会教育学系 山縣 耕太郎 教授	電話 E-mail 025-521-3331 kotaro
	受講対象	教員、保護者、幼児、小学生、中学生、 高校生、地域住民	講義形式 講義時間 野外観察 相談の上決定
地域の地形・地質を理解することは、地域の特徴や土地の成り立ちを理解するため、あるいは災害に備えるために重要と考えられます。しかしながら、地球科学的な現象は、時間・空間スケールが大きいので、教室における学習だけでは実感をもって理解することが難しいものです。そこで野外における実物の観察の必要性が指摘されています。学習指導要領においても小・中学校の理科の内容、および高校の地学の内容に地層の野外観察が含まれています。しかし、いろいろな事情から実施が難しい場合も多いようです。そこで、本講座では、地域の地形・地質を観察する機会を提供します。観察を行う場所や、観察の内容については、相談の上、選定します。これまでに、柏崎市米山海岸における地層や化石の観察、上越市柿崎区における砂丘をつくる地層の観察、直江津地域における河川堆積物、砂丘をつくる地層の観察、糸魚川市筒石における地層の観察などを行っています。			

59		光の性質	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 小川 佳宏 教授	電話 E-mail 025-521-3433 ogawa
	受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民	講義形式 講義時間 講義 1 時間～1 時間 30 分
光は日常生活に密接に関わり、色々な光学製品などにも利用されています。プールが浅く見えたり、雨上がりに虹が見えたり、夕日が赤く見えたりするのは、光の屈折や分散・散乱によるものです。また、顕微鏡や望遠鏡はレンズや鏡をうまく利用して作られています。光はこのような性質の他に、波としての性質と粒子としての性質も持っています。この講座では、「日常で見られる光の性質」、「顕微鏡や望遠鏡の仕組み」、「光の波としての性質」、「光の粒子としての性質」などについて、受講者の要望に応じて紹介します。			

60		出前実験	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 小川 佳宏 教授	電話 E-mail 025-521-3433 ogawa
	受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式 講義時間 実験 1 時間程度
注意事項 実験の内容は受講者と相談の上、決めます。			
科学を身近に感じ、興味や関心を深めるには、実際に体験することが一番です。この講座では、「手作りスピーカー」、「カメラの模型の作成」、「偏光万華鏡の作成」、「光通信の実験」、「液体窒素の実験」などの実験を皆さんの教室にお届けいたします。			

61		歌唱・合唱講座	
講 座 概 要	担当講師 (所属・氏名・職名)	副学長／芸術・体育・教科横断・総合教育学系 上野 正人 教授	電話 E-mail 025-521-3206 mueno
	受講対象	教員、小学生、中学生、高校生、大学生、 地域住民	講義形式 講義時間 演習 1 時間 30 分（希望により変更可能）
だれでも手軽に楽しく取り組める歌唱・合唱。美しく、かつ説得力ある感動的な演奏のための基礎練習から演奏までの流れを、実際に演奏に取り組みながら学びます。講座で取り上げる作品は、それぞれ依頼者と相談の上、決めます。			

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

62		合奏の基礎—その目的と効率的な方法—	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 正規 准教授	電話 E-mail	025-521-3519 hasegawa
受講対象	小学生、中学生、高校生	講義形式	実技
		講義時間	2 時間（希望により変更可能）
注意事項	受講者が使用する楽器はご準備ください。		
講 座 概 要	吹奏楽などの合奏の音色を豊かにし、音楽性を高めるための基礎的なトレーニング方法について、その意義や目的を認識しながら実践します。合奏の形態は、リコーダーや鍵盤ハーモニカなど様々な編成に応じることができます。 使用する楽譜についてはこちらで準備できますが、受講される方々が通常使用しているものを扱うことも可能です。 講師の専門はチューバですので、合奏に繋がる金管楽器の基礎奏法について適宜取り上げることもできます。 なお、この講座は平成28年度上越教育大学研究プロジェクト「管打合奏における基礎トレーニング教材の分析と使用法」の成果を反映させています。		

63		合奏における作品演奏の実践	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 正規 准教授	電話 E-mail	025-521-3519 hasegawa
受講対象	小学生、中学生、高校生	講義形式	実技
		講義時間	2時間（希望により変更可能）
注意事項	・受講者が使用する楽器および楽譜はご準備ください。 ・必要に応じて、事前に楽譜をお送りいただくことがあります。		
講 座 概 要	小さなアンサンブルから吹奏楽、管弦楽など合奏の編成は問いません。作品分析やサウンドづくりなどの視点から、実際に音を出しながら学びます。取り上げる作品は、基本的に受講者の要望に応じます。		

64		〈ガムラン〉に触れてみよう	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 玉村 恭 准教授	電話 E-mail	025-521-3514 tamamura
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	ワークショップ
		講義時間	2 時間
注意事項	・実演形式のワークショップで10～20名くらいを想定しています。 ・実施規模・人数・形態等、事前にご相談ください。		
講 座 概 要	インドネシアの古典音楽である〈ガムラン〉。その不思議な響きを生で体験してみませんか？世界には様々な音楽がありますが、インドネシアにも、日本や西洋の音楽とは全く異なる独自の音楽文化があります。本学にはバリ・ガムランの楽器が一揃いあるので、それを使った合奏にチャレンジします。見たこともない楽器で聞いたこともない響きを奏でる経験は、私たちの世界観を大きく広げてくれるはずです。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※  マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

65		和楽器・日本音楽の世界	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 玉村 恭 准教授	電話 E-mail	025-521-3514 tamamura
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、 地域住民	講義形式	ワークショップか講義、 またはその両方（応相談）
		講義時間	1 時間～2 時間（応相談）
注意事項	大学所有の楽器を使います。扱える楽器や内容、講座の規模等には限りがありますので、ご相談ください。		
講座概要	形も奏法も様々な「和楽器」。実際に触れて音を鳴らし、響きと音色を味わってみませんか？ また、そうした活動を通して、日本音楽の特質、日本の伝統的な感性のありようについて、理解を深めます。講座の規模（人数や時間、回数）、内容（何に焦点を当てるか、演習か講義か）等、ご相談ください。		

66		木材の性質と木工を学ぶ	
担当講師 (所属・氏名・職名)	自然・生活教育学系 東原 貴志 教授	電話 E-mail	025-521-3405 htakashi
受講対象	小学生（3～6 年生）、中学生、高校生	講義形式	実験・実習
		講義時間	2 時間以上
注意事項	作業ができる図工室や技術室などで実施します。1 クラスの人数が 30 名を超える場合はご相談ください。		
講座概要	木材には軽くて強い性質や音をよく伝える性質があり、肌触りが良く暖かみがあります。そのため、木材を利用したさまざまな家具、楽器、食器、おもちゃがつくられています。また、木材のほか、合板などの木質材料も広く使用されています。この講座では、木材の性質と木工に必要な道具の使い方を学び、生活に役立つ木製品を製作します。		

67		動きづくり～動きを豊かにしよう～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 周東 和好 教授	電話 E-mail	025-521-3578 shuto
受講対象	幼児、小学生、中学生、高校生、 （教員、保護者）	講義形式	講義・演習・実技 （ご相談に応じます。）
		講義時間	45 分～1 時間 30 分 （ご相談に応じます。）
注意事項	教員と保護者については、児童・生徒らと共同の場合に対象とします。大人のみの場合は、地域住民対象の【講座番号 68】「体づくり～体調の整え方～」にお申し込み下さい。教員研修は、出前講座とは別にご連絡下さい。		
講座概要	スポーツ実践で新しく動きを覚えようとするときには、それまでに獲得されている動きが役立てられます。本講座では、さまざまな動きを運動経験として蓄積することによって、その後のスポーツ実践に役立てることをねらいとし、簡易な実技を通して学びます。 体づくり運動もしくは器械運動の内容として学びます。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ ☐ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

68		体づくり～体調の整え方～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 周東 和好 教授	電話 E-mail	025-521-3578 shuto
受講対象	地域住民、企業	講義形式	講義・演習・実技 (ご相談に応じます。)
		講義時間	1 時間～1 時間 30 分 (ご相談に応じます。)
講 座 概 要	今日のあなたの体調は良いですか。 健康な体づくりを目指して、日々の健康維持に役立てることをねらった簡易な実技によって、体調を把握する方法、体調を整える方法を学びます。		

69		やわらかなからだ～柔軟プログラムの提供～	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 周東 和好 教授	電話 E-mail	025-521-3578 shuto
受講対象	幼児、小学生、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義・演習・実技 (ご相談に応じます。)
		講義時間	45 分～2 時間(ご相談に応じます。)
講 座 概 要	柔軟性を獲得するには、継続的な取り組みを必要としますが、やり方によっては結果を得るまでの期間は大きく異なります。また、動きの柔らかさについてはあまり問題視されていないのが現状です。 日常のちょっとした動き方の工夫で身体は柔らかく変化します。 本講座では、からだや動きの柔らかさについて、簡易な実技を通して学びます。		

70		スポーツ・運動ができる・上手くなる過程	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 晃一 講師	電話 E-mail	025-521-3566 koichi
受講対象	教員、保護者、中学生、高校生、 地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間 30 分
講 座 概 要	スポーツや運動をしてきて、できなかった動きが突然できるようになった経験や、できていた運動が突然できなくなってしまった経験はありませんか？このような不思議な現象は、実は誰にでも起こりうることで、スポーツ運動学という学問では、動きの上達過程としてきちんと定義されています。 本講義では、スポーツ・運動ができる・上手くなる過程を理解することで、どのように練習を進めればよいのかを自分自身で工夫したり、適切な練習内容や回数を考えるためのヒントを得ることを目指します。		

71		スポーツ・運動の指導者にとって必要な能力	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 晃一 講師	電話 E-mail	025-521-3566 koichi
受講対象	教員、保護者、地域住民、企業	講義形式	講義
		講義時間	1 時間 30 分
講 座 概 要	スポーツ運動学という学問では、スポーツ・運動の指導者にとって必要なのは、観察、交信、代行、処方の能力であるとされています。 本講座では、これら 4 つの能力について、自身の指導経験と照らし合わせて理解することで、よりよい指導実践に繋がることを目指します。		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※ □ マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

72		現代的なリズムのダンスの導入	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 晃一 講師	電話 E-mail	025-521-3566 koichi
受講対象	教員、中学生	講義形式	実技
		講義時間	1 時間 30 分
講座概要	現代的なリズムのダンスは、現代的なリズムに乗って自由に踊ることを目的としていますが、経験の少ない生徒にとっては「どう動いていいかわからない」など難しい課題であると考えられます。 本講座では、リズムを取るために必要な音取り（ダウン・アップ）と簡単にできるステップを学習し、自由に踊るための手掛かりとなる基本動作を獲得します。		

73		体操の補助	
担当講師 (所属・氏名・職名)	芸術・体育・教科横断・総合教育学系 長谷川 晃一 講師	電話 E-mail	025-521-3566 koichi
受講対象	教員、小学生、中学生、企業	講義形式	実技
		講義時間	1 時間 30 分
講座概要	体操において、安全に正確な技を身につけるには、指導者の補助できる能力は欠かせません。しかし、仕方が分からずに補助に入ってしまったことで、学習者の動きを妨げてしまったり、危険な目に合わせてしまったりする危険性もあります。 本講座では、補助には技や学習者に合わせた適切な間合いや力加減を学びます。種目は、主にマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動です。		

■いじめ・生徒指導研究研修センター

74		いじめ・不登校等生徒指導	
担当講師 (所属・氏名・職名)	いじめ・生徒指導研究研修センター 高橋 知己 教授 大門 秀司 准教授 生方 直 講師 辻村 貴洋 准教授 寺戸 武志 准教授 蜂須賀 洋一 准教授	電話 E-mail	025-521-3541 tomomi daimon ubukata tujimura terado yoichi
受講対象	教員、保護者、小学生、中学生、高校生、企業等	講義形式	講義・講演・演習
		講義時間	要相談
講座概要	いじめ・生徒指導研究研修センターは、「いじめ・生徒指導に関する教育研究の推進」、「教育機関との連携」、「社会への貢献」を事業の柱に、現代の社会的な状況を背景にしたいじめ・生徒指導に関する理論的、実践的な研究を行うとともに、教員研修などの支援を行っています。 子どもたちの命を守るため、わたしたちができること、考えなければならないこと、大人がとれる対応はまだあるはずです。チームとして、家庭と地域と学校で考えていきませんか？ 講座の内容は、受講者（各機関等）の課題及び要望等を踏まえ、決定します。 講師の希望がある場合は、お申込みの際にお知らせください。 【いじめ・生徒指導研究研修センター】 https://www.juen.ac.jp/050about/020campus/001center_library/700rbgc.html		

※ E-mail はアルファベット表記の後ろに@juen.ac.jp を加えてください。

※  マークの講座はオンライン対応可能な講座です。なお、オンラインミーティングの設定は原則、依頼者側で行ってください。

出前講座申込書

上越教育大学長 殿

〈申込代表者〉 住 所
機 関 ・ 団 体 名
役 職 名
氏名（学校長名）

出前講座の実施を下記のとおり申し込みますので、承認願います。

記

1. 講座番号
講座名
2. 講師氏名
3. 講義日時
4. 講義場所（住所）
5. 受講対象者及び人数
6. 目的及び内容
7. 連絡先（担当者・電話番号・メールアドレス）

出前講座実施報告書

上越教育大学長 殿

〈申込代表者〉 住 所
機 関 ・ 団 体 名
役 職 名
氏名（学校長名）

出前講座を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1. 講座番号
講座名

2. 講師氏名

3. 講義日時

4. 講義場所

5. 受講対象者及び人数

6. 目的及び内容

7. 意見・感想

8. その他（今後扱ってほしいテーマなどがありましたら、お書きください。）

2025年度「上越教育大学出前講座」アンケート

今後の講座実施の参考資料といたしますので、アンケートにご協力をお願いしま

※ 集計結果には、回答者名・組織名等は非公開です。

(1) 出前講座を何で知りましたか。

- ☐ 学校・職場等の案内 ☐ 大学のホームページ ☐ 同僚・知人の紹介
- ☐ 以前にも受講したことがある ☐ その他（ ）

(2) 受講した出前講座の内容に満足できましたか。

- ☐ 大変満足 ☐ 満足 ☐ どちらともいえない ☐ やや不満 ☐ 不満

(3) 出前講座で得た知識を今後の実践に活かしたいと思いますか。

- ☐ そう思う ☐ だいたいそう思う ☐ どちらともいえない
☐ あまりそう思わない ☐ そう思わない

※1 講習料が無料の利用者様に伺います。(あくまでも参考です。)

講習料が有料（通常 20,000 円）でもお申し込みいただけますか？

- ☐ ①申し込む ☐ ②金額による ☐ ③申し込まない

※2 上記※1で ②の方に伺います。

講習料を 5,000 円とした場合、お申し込みいただけますか？

- ☐ 申し込む ☐ 申し込まない
→ いくらでしたら申し込む可能性がありますか？（ 円）

ご協力ありがとうございました。

上越教育大学研究連携課 国際交流・地域連携チーム
TEL : 025-521-3665 FAX : 025-521-3621
E-mail : chiki@juen.ac.jp